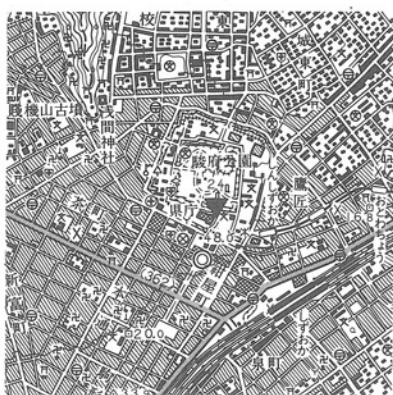


- 調査は県庁別館の建設に伴って実施された。東側隣接地（駐車場建設地）から出土の木簡についてはすでに本誌第九号に報告がなされ



今回の調査地点は「駿府城御城絵図」によると、三の丸のうち、「御城代向屋敷」に相当しているが、明治以降の攪乱により、近世駿府城の遺構としては井戸土坑が検出されたのみである。

三の丸は、慶長二年（一六〇七）の修築の際、本丸、二の丸までであった天正期の駿府城を拡張したものとされる（『当代記』）。流路の年代は慶長一二年以前と考えられる。

(1)

• [☐ ☐ ☐]

78×21×4 032

(2) $\begin{bmatrix} \square & \square & \square \\ \square & \square & \square \end{bmatrix}$

・「く壺斗 とちた」
☐ ねカ

134×24×2 032

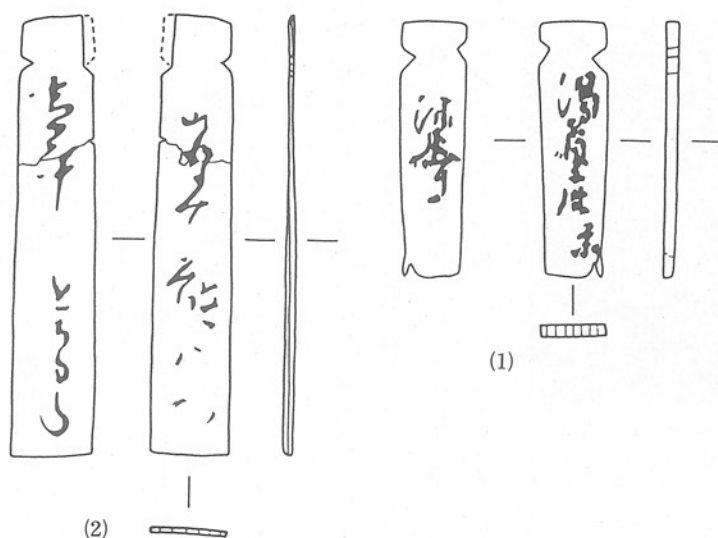
83

なお、木簡の釈読にあたっては、原秀三郎・湯之上隆岡氏のご教示を得た。

9 関係文献

静岡県教育委員会『駿府城三の丸跡・駿府城内遺跡』（一九九四年）

（佐藤正知）



静岡・駿府城跡

すんぶじょうあと

- 1 所在地 一 静岡市駿府町、二・三 静岡市駿府公園
- 2 調査期間 一 一九八七年（昭62）十一月～一九八八年一〇月、二 一九九〇年（平2）五月～一九九一年五月、三 一九九二年七月～一九九三年二月
- 3 発掘機関 静岡市教育委員会
- 4 調査担当者 一 伊藤寿夫・岡村 渉、二 山本宏司・八木広尚・稲 智穂、三 山本宏司・岩田智穂
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 中世～近世



（静岡）

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
駿府城跡は、安倍川によって形成された扇状地（静岡平野）の中央を南に延びる微高地上に所在する。標高約二二mのこの微高地は比較的安定した場所であり、弥生時代中期から近世まで